

タイムカプセル開封式 20年前の 思い出がいっぱい

自分へ、あの人へ宛てた
メッセージが20年ぶりに
届けられました



左から石橋町長、平田公佐さん、坂本正男さん、
椿由美子さん（20年前の実行委員の方々）

平成3年1月25日に役場庁舎前の植え込みに設置された「平成の風モニュメント」下に埋められたタイムカプセルが、20年の時を経て今年1月25日に開封されました。

開封式には、20年前のモニュメント建設実行委員の方々3名が出席し、石橋町長と一緒に白い箱型の強化プラスチック製のカプセル（長さ110センチ、高さ50センチ）を掘り起していただきました。中身は、20年の時間を感じさせないほどこきれいで、「20年後のあなたへ」をテーマに町民から寄せられたメッセージ70通ほか戦没者名簿や町政要覧、当時の新聞など約20点が埋められていました。その中の一つには、当時の町内の様子を収録したビデオテープもあり、開封式の後上映会も行われ、写し出される役場下にあった旧神崎小学校や356号バイパスの走っていない堤防の風景に「おお、そうだった」「なつかしい」といった声があがっていました。また、「20年後のあなたへ」メッセージは、開封式当日には、宛名に記された方々に郵送されました。

ここで、届いたメッセージに寄せられた感想を紹介します。

驚きました！

椿 和夫さん（毛成）

カプセル内のメッセージお届けくださり、ありがとうございます。

こんなこと全然忘れていました。驚きました。当時64歳であった私が生きて読めると思っていまませんでした。メッセージが眠っている間に、息子にも家族ができ、今では9歳になる孫にも恵まれるという嬉しい出来事もありましたが、両親との死別、また諸先輩、後輩、友人の死という悲しい出来事もありました。

私が20年前に書いた気持ちは、今も同じです。古人、今人、流水のごとく永久



力を合わせて掘り出し作業です。



テーブルに並べられた思い出たち

に変わりません。

神崎の北を流れる大利根の水も昼夜の別なく悠々と流れています。しかし、昨日と今日の水は同じ水ではありません。

私たちが人間も人類として、地球ある限り生き続けていくでしょう。利根川の水のように…

皆さんも生きているうちは、健康で友人たちを傷つけることなく生きていきましょう。

感想を寄せられた方々ありがとうございました。

ここで紹介しきれなかった感想は、ホームページ等で紹介していきます。